

一日の始まり

なんと清らかな



**翌** 朝五時四十分、黒島天主堂。空が明るくなりかけた頃、一人また一人と堂内へ吸い込まれるように人々が入っていく。朝のミサだ。

堂内は昼間とはまた違う凛とした雰囲気包まれていた。シスターがひざまずいて静かに祈りの時を待っている。

六時、アンゼラスの鐘の音と共に祈りが始まった。

私に 慰められるよりも 慰めることを

理解されることよりも 理解することを

愛されることよりも

愛することを望ませてください

ミサが終わわり外へ出ると、太陽が昇り、天主堂へと光が降り注いでいた。

信徒たちはこう話す。「朝のミサへ出ると、帰ってからのご飯が美味しいし、畑仕事もさばけるとよ」。「女房とけんかしても、一緒にミサへ出ると、帰る頃には自然と仲直りしとります」。

オルガンの音色と



賛美歌が響き渡る。

黒島天主堂  
朝のミサ